

# 日刊 勤労千葉

82.12.23

No.1227

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
 (鉄電)二九三五(六)・(公電)三三三三・七二〇七

## 一人ひとりが活動家に」を合言葉に闘おう! 蘇我支部定期大会開かる (12/20)

支部通信員・発

蘇我支部定期大会は十二月二十日十時より、構内詰所において代議員と多数の組合員が参加し、本部より山口副委員長、森内特執、中江顧問を来賓に迎え開催されました。

大会は渡辺副支部長の司会で役員・代議員・委任者を確認し、議長に検査分科渡辺代議員を選出して進められました。

丸島支部長は「この間政府・自民党と一体となつた国鉄当局は、我々から既得権であつた乗車証を始めとし、あらゆる権利をここ半年の間に取り上げるといふ暴挙を行つてきた。これは国鉄労働者に対する攻撃である。一人ひとりが活動家となり団結していこう。中江選挙の必勝を期して闘っていこう」とあいさつしました。

来賓のあいさつは、本部を代表して山口副委員長より、「鈴木に変わった中曾根内閣は、ますます軍事色を深め、軍事大国化にむけて進もうとしている。臨調・行革にむけ国鉄制度の大改悪を行ううとしている。これはまさに国鉄労働者に対する攻撃である。『成田用水』をめぐる地域住民への攻撃、現協改悪、反動性をむき出しにした『五七・一ダイ改』、組合分断攻撃、そして動労『本部』革マルは当局の先兵として暗躍している。地域住民と密着した運動を行うためにも中江選挙を闘っていこう」とのあいさつを受けました。

また船橋市議選に来春立候補する中江顧問は、「労働組合は右傾化の道を進んでいる。地域住民と密着した運動をやらなければならない。八三年決戦は日本の方向を決する年である。戦争か平和かが問われている。国鉄の赤字を国鉄労働者にお

丸島支部長を先頭に、団結がバナー!



活発な討論を展開

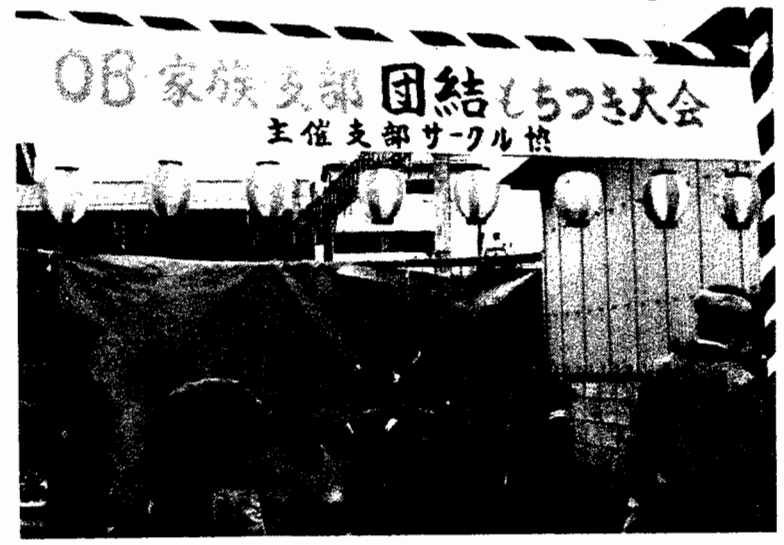
議事が進められ、質議では「京葉線を含めた蘇我支区の将来展望」「機関士科入所問題」「乗車証問題」などが出され、活発な討論が行われた。運動方針を全員で確認し、「みんなが活動家になろう」を合言葉に闘う決意をうちかため、十二時三十分大会を終了した。

### 一足早く、団結もちつき大会

組合員・家族・OBら、90余名が参加し、2俵半のもちをつき上げる

支部サークル協主催による、第二回団結もちつき大会は、十二月十九日、時折り小雨のばらつく早朝七時より始められました。

恒例の「火入れ式」は、川嶋三郎実行委員長の手で四機の釜に次々と火が入られました。組合員・家族・OBが、今日のために腕に磨きをかけた「あんころ」「きな粉」「大根おろし」「ぞう煮」もちなど、今日ではめずらしくなった木臼も



ちを、木臼を囲んで試食会を開きました。市販もちとは一味違う木臼もちを、全員が腹一杯につめこみ一俵のもちはずなりました。最後に、つき手関川委員長、こねとり高木家族組合長、全員のかげ声による大イベントで終了しました。

親睦会で交流を深める 十四時より第二部の会場で親睦会を開催しました。参加したOB六名を代表して綿貫氏は「紹待されともうれしかった。来年もぜひお願いする。国鉄は今、非常に厳しいが臨調攻撃に絶対に負けるな」と激励され、日暮支部長がこれに答え、「OBの御支援を無駄にすることなく、団結で政府・当局・『本部』革マルの組織破壊を断固粉碎す」と「エール交換」しました。鈴木三男実行委員の司会によるカラオケ大会は、若い声・渋い声がとびかい、なごやかに進み、「団結もちつき大会」は夕聞せまる十六時に無事終了しました。

組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!